香川高等専門学校　平成23年度　年度計画・実績報告

Ｓ　：　年度計画を十分に履行している。
Ａ　：　年度計画をほぼ履行している。
Ｂ　：　年度計画を十分に履行していない。
Ｃ　：　年度計画を履行していない。

平成23年度　年度計画	平成23年度　実績報告	自己評価		
香川高等専門学校（以下「香川高専」という。）の中期計画に基づき，平成23年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。				
Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する事項	Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する事項			
（1）入学者の確保 ① 後援会と連携して入学案内等を配布し，積極的に広報活動を行う。 各中学校で実施する高校説明会に参加する。 在校生が出身中学校を訪問するなど，積極的に香川高専をPRする。 中学生向けだけでなく，小学生あるいは保護者や一般市民もターゲットとして学外で開催される各種イベントに積極的に参加して，高専をPRする。 学習塾の講師とのネットワークを強化する。 香川高専創基70周年・高専創立50周年に向けて，同窓会組織と連携した各種広報活動を検討する。	（1）入学者の確保 ① 後援会役員等へ学校案内を送付し，近隣の中学校や中学生へのPRを行っていただいた。	A	A	A
	両キャンパスの教職員が分担して，香川県を中心として近隣各県の中学校に担当者を決めて，入学者確保のためのPR活動を行った。 在校生（51人）及び教員（13人）が出身中学校（56校）を訪問し，香川高専のPRを行った。 PRの結果については，学生及び教員から報告書を提出させた。 この報告書は，次年度の活動に反映させる。	A		
	「サイエンススクール～エネルギーについて調べてみよう！」などのイベントに参加し，一般市民にも香川高専のPRを行った。 小中学生を対象に見学バスツアー（10/23）を開催した。	S		
	全国規模の明光義塾，湯口塾，高松高等予備校において，中学生・保護者に香川高専のPRを行った。 香川県内の学習塾（14校）を訪問し，PR活動を行った。	S		
	本校同窓会に対して，ホームカミングデー（卒業生・家族との交流）を利用して香川高専創基70周年・高専創立50周年記念事業のPR活動を行った。	A		
② 入学説明会，学校説明会，体験入学，オープンキャンパスを複数回開催するなど，PRの充実を図る。 各催し物の日程などを早期にホームページに掲載する。 特に女子学生の高専卒業後の進路について調査を行い，その結果をPR活動に活かす。	② 入学者募集説明会（10/7,8,11,12,13。11/5,6,19,20,26）の開催会場，回数を増やして実施した。 体験入学（8/6,7,27），オープンキャンパス（8/7,27。10/29,30。11/5,6）を実施した。	S	S	
	各催し物の年度計画を5月下旬にホームページに掲載し，変更の都度，内容を改訂した。	S		
	女子学生の高専卒業後の進路について調査を行った。 その結果を今後のPR活動にどのように活かすか，検討中である。 PR活動の一環として女子中学生を対象とした講演会（10/29）を実施した。	A		
③ 中学生やその保護者を対象とした入学案内を作成する。 中学生向けの広報用DVDの配布，ICTオープンキャンパスを利用した広報活動を充実させる。 高専機構の作成した広報資料を有効活用する。	③ 入学案内，学校案内，募集要項を見直し，全面的な改訂を行った。	S	A	
	省エネに合わせた広報用うちわ，中学生向け広報用DVDを作成し，配布した。 近隣の中学生から希望者を募り，本校のPRも兼ねて産業技術振興会の会社見学（3/24，37人参加）を実施した。募集はパンフレットの配布及びICTオープンキャンパスに掲載して周知した。	A		
	高専機構の作成した種々の広報資料を，学校訪問や各種イベントで配布した。	A		
④ 入学者の追跡調査などを行い，高専教育にふさわしい人材を的確に選抜できるように推薦基準や選抜方法について検討する。	④ 入学者の追跡調査を行い，入学試験委員会で推薦基準や選抜方法について検討し，出願書類の提出先を志望学科及び検査場によらず都合の良い方に変更するとともに，調査書の様式については香川県以外でも岡山県，徳島県，愛媛県の公立高等学校入学者選抜要項による調査書の代用もできるようにした。	S	S	
⑤ 入学説明会，学校説明会，体験入学，オープンキャンパスなどを通じ，高専のPRを積極的に行う。 各種催し物の実施方法や内容について検討する。 入学者の減少した中学校を訪問して，情報収集に努める。 岡山地区への広報活動を積極的に行う。	⑤ 入学者募集説明会（10/7,8,11,12,13。11/5,6,19,20,26）の開催会場，回数を増やして実施した。 体験入学（8/6,7,27），オープンキャンパス（8/7,27。10/29,30。11/5,6）を実施した。	S	S	
	各種催し物の実施方法や内容について検討し，学生の協力を仰ぐなど学生主体の催しに改善した。	S		
	入学者の減少した中学校を訪問し，情報収集を行った結果と，県内並びに近県の中学生数，高度化再編に伴う学生募集定員の変更と過去2年間の志願倍率等を総合的に分析して，統合初年度の高倍率に対する反動が志願者減少の原因であると位置づけた。 これを踏まえ，入試委員会検討結果に沿って夏から秋にかけて，積極的な募集活動を展開し，結果としてH24年度入試において，高度化再編初年度を上回る応募者を確保した。今年度の取組を次年度も継続強化する予定である。	S		
	岡山県での中学校訪問（27校）及び入学者募集説明会（2回）を行った。	S		

平成23年度　年度計画	平成23年度　実績報告	自己評価		
（2）教育課程の編成等 ①　学年進行中における教員配置，設備の更新等を計画的に行う。 専攻科の長期インターンシップの導入について，平成22年度に変更した専攻科教育課程表に基づく実績の積み上げを図る。 新分野の学科の設置や改組・再編・整備等の検討を行う。 専攻科においてネイティブ教員による英語授業を実施する。	（2）教育課程の編成等 ①学年進行中における教員配置，設備の更新等を計画し，それに沿って計画どおり実施している。	A	A	A
	平成22年度から専攻科に長期インターンシップを組み込み，専攻科生の積極的な参加を促した。 2年間の実績として90時間（2単位）を超える学生が増えてきた。	A		
	新分野の学科の設置や改組・再編・整備等について，校長の下に設置した将来計画検討タスクフォースにおいて，検討を進めている。	A		
	本科及び専攻科においてネイティブ教員や外国人講師を招聘し，英語授業や英会話セッションを実施した。	A		
②　地域や学生のニーズに応じた新学科，新分野，コース制及び学科再編の検討を継続的に行う。	②　新分野の学科の設置や改組・再編・整備等について，校長の下に設置した将来計画検討タスクフォースにおいて，検討を進めている。	A	A	
③　低学年における基幹的な科目（数学，物理，英語）の教育課程について継続的に到達度を把握する。 「数学」，「物理」については学習到達度試験の結果をもとに改善する。 「化学」については四国共通試験を四国高専拠点校として実施し，学力向上に努める。 「英語」については，技術者として必要とされる英語力の涵養に努めるため，TOEIC, ACE テストなどの結果を分析し，それをもとに教育内容の改善に努める。さらに，英検等の英語資格試験を活用して英語学習の動機付けを行う。	③　3年生を対象とした数学と物理の基礎学力試験を実施した。 また，高専機構が行う数学と物理の学習到達度試験（3年生）と，四国地区高専で行う英語（3年）と化学（1～2年）の試験を実施した。 工学系数学統一試験EMaTの試験会場として高松キャンパスを登録し，今年度から両キャンパスの専攻科生に受験を勧め，全専攻科生の数学力の把握に努めている。	B	B	
	化学について，四国共通試験を本校が主導して実施した。	A		
	TOEIC試験の実施については，専攻科1年生及び本科の希望者に対して，4月，6月，11月，12月，1月，2月に実施した。 実践英語（専攻科）では，TOEICで400点以上を目標に英語科教員の協力を得て指導している。 ACE試験については，1年生から3年生の約400人に5月と1月に2週間にわたって実施した。 それぞれの試験結果の傾向を各教科で分析し，それぞれの授業の具体的な改善策として，過去問題や宿題による復習等の対応策等を検討している。 これまで詫間キャンパスで実施していた英語合宿を今年度から両キャンパスに導入した。	B		
④　教育活動の改善・充実に資するため，在学生による授業評価を実施し，教員にフィードバックする。 全学統一の授業アンケートシステムを整備し，教育活動の改善と充実を図る。 卒業生による学校評価の実施について検討する。	④　在学生による授業評価を実施し，その結果は教員にフィードバックした。	A	B	
	全学統一の授業評価アンケートシステムは，平成25年度から運用させるため，準備を進めている。	B		
	同窓会組織を活用して学校への意見等を収集するなど，卒業生による学校評価の実施時期や方法について検討している。	B		
⑤　学生の創造性を育み，知的財産教育を推進するため，学内発明コンテストを開催する。 全国高専ロボットコンテスト，全国高専プログラミングコンテスト，全国高専英語プレゼンテーションコンテスト及び全国高専デザインコンペティションへの学生の参加を積極的に支援する。 学生のパテントコンテストへの応募を支援する。 高専体育大会へ参加する学生を積極的に支援する。	⑤　学内発明コンテストについて，7/14に学内公募を行い，審査会を経て10/13に表彰を行った。（応募件数45件，表彰8件）	A	S	
	全国高専ロボットコンテスト等，全国規模のコンテストの成績は常に学生に披露し，学生表彰の対象とすることで，学生の関心と意識を高めている。 地区大会や全国大会で優秀な成績をあげているロボコンやプロコンチーム等に対して学生表彰を行った。 （参加実績） ・全国高専プレコン　3チーム　→　最優秀賞　1チーム ・全国高専ロボコン　2チーム　→　2回戦敗退　1チーム ・全国高専英語プレコン　ｽﾋﾟｰﾁ 2人，ﾌﾟﾚｾﾞﾝ 1ﾁｰﾑ　→　コセット賞　1人 ・全国高専デザコン　2チーム	S		
	学内発明コンテスト最優秀2件，他1件を文部科学省，特許庁主催の全国パテントコンテストに応募した。その結果，最優秀1件は高専部門おいて主催者の支援のもと受賞案件の特許出願を行うことができる「特許支援対象者」として選抜される栄誉を得た。もう1件については，学内で独自に知財アドバイザーによる明細書等作成の指導に取組み，実用新案登録願を出願した。 高専体育大会への参加学生については，交通費などの支援を行っている。	S		
⑥　各高専の取組状況などを参考に，現在実施している社会奉仕活動や自然体験活動に，より多くの学生が参加できる体制の整備について引き続き検討する。 新入生合宿研修を実施する。	⑥　社会奉仕活動として，川の水をきれいにしようという趣旨により，月に1回，香川県と共同して学生による「香東川」の清掃活動に取り組んでおり，このような活動は今後も継続して行う。 運動系クラブのリーダーシップ研修（9/30，10/1）を両キャンパス合同で実施した。 両キャンパス寮生の親睦促進を目的とした寮生交流スポーツ大会（10/15）を開催した。	A	A	
	国立大洲青少年交流の家において新入生合宿研修（4/21，22）を両キャンパス合同で実施した。	A		
（3）優れた教員の確保 ①　多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないように，関係団体等を通じて教員の募集活動を行い，更なる多様な人材の発掘に努める。	（3）優れた教員の確保 ①　多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないように，関係団体等を通じて教員の募集活動を行い，更なる多様な人材の発掘に努めている。	S	S	
②　長岡，豊橋の両技科大との人事交流制度を継続して活用する。引き続き，企業から任期を付して人材を受け入れる。 四国地区高専間の教員人事交流の制度化について検討する。	②　長岡，豊橋の両技科大との人事交流制度を継続して活用している。	B	B	
	また，四国地区高専間の教員人事交流の制度化について，四国地区高専校長・事務部長会議において検討を行った。 H24年4月の人事交流は実現しなかったが，H25年以降も引き続き，人事交流を推進する。	B		

平成23年度　年度計画	平成23年度　実績報告	自己評価		
③　専門科目については，博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者，一般科目については，修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者を採用時の条件とすることにより優れた教員の確保に努める。	③　専門科目については，博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者を採用時の条件とし，また，一般科目については，修士以上の学位を持つ者を採用時の条件とすることにより優れた教員の確保に努めている。	A	A	A
④　女性教員の積極的な登用に努める。 女性教員にとって働きやすい職場環境の整備について検討する。	④　英語教員の補充について，応募資格を「女性」に限定して公募を行った。	A	A	
	女性教員のための職場環境の整備について，香川県内の高等教育機関における女性研究者が教育研究に力を発揮できる環境整備について検討する「香川県内女性研究者支援連絡会」に参加し，他機関との情報交換を通して，検討を進めている。	A		
⑤　高専機構の開催する各種研修会等に参加する。 全教員が参加するFD研修会を開催する。	⑤　高専機構の開催する各種研修会等に積極的に参加している。	A	A	
	全教職員が参加するFD・SD研修会（7/26）を開催し，その内容を報告書に取りまとめ，全教職員の意識共有に努めた。 また，教育実践事例報告会（12/5）を開催し，両キャンパスの優れた取り組みを共有した。	A		
⑥　教育活動や生活指導などにおいて，顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰するとともに，国立高専教員顕彰に推薦する。	⑥　平成23年度国立高等専門学校教員顕彰候補者に4名推薦し，うち2名が分野別優秀賞を受賞した。	S	S	
⑦　教員の国内外の大学等での研究，研修及び国際会議参加に対し，旅費等の支援を行う。	⑦　教員の国内外の大学等での研究，研修及び国際会議参加に対し，校長裁量経費から旅費等の支援を行った。	A	A	
（4）教育の質の向上及び改善のためのシステム ①　教育の質の向上に資する教材や教育方法の開発を進めるために必要な支援を行う。 遠隔講義システムの検討並びにe-Learning教材の開発を行う。	（4）教育の質の向上及び改善のためのシステム ①　教育の質の向上に資する教材や教育方法の開発を進める取組は，校長裁量経費から必要な支援を行った。	A	A	A
	遠隔講義システムを利用した遠隔授業は化学と英語で実施した。 e-Learning教材の開発については，コンテンツ「無線工学演習」を開発し，無線工学演習で活用して，第2級陸上無線技術士の「無線工学B」の合格率の増加につながった。（H22年度：26％（11/32人）→H23年度：32％（8/22人）） （H22年度：26％（11/32人）→H23年度：32％（8/22人））	A		
②　在学中の資格取得を推進するために，資格を学修単位として認定する。 JABEE認定審査の継続審査を踏まえ，教育方法等の改善について検討する。 電子情報工学コースの平成24年度中間審査に備えて教育改善，及び，根拠資料の充実を図る。	②　在学中の資格取得を推進するために，資格を学修単位として認定した。（TOEIC　11人，実用英語技能検定　17人，ディジタル技術検定　17人，陸上無線技術士試験　4人など）	A	A	
	JABEE審査結果を有効に活用するために，教育方法等の改善について検討を行っている。	A		
	電子情報工学コースの中間審査に備えて根拠資料である成績保存作業を継続して行っている。（根拠資料保存用サーバーを設置）。	A		
③　中国四国地区高専専攻科生研究交流会に積極的に参加し，他高専との交流を推進する。 学生を大阪大学へのインターン研修に参加させる。 平成24年度中国四国地区高専専攻科生研究交流会開催に向けて準備する。	③　4/28・29，中国四国地区高専専攻科生研究交流会に32名が参加し，他高専と積極的に交流を行った。（中国四国地区全13高専14キャンパス参加，研究発表32件）	A	A	
	専攻科生1名が大阪大学へのインターン研修に参加した。	B		
	平成24年度中国四国地区高専専攻科生研究交流会開催に向けて準備を行った。	A		
④　教育実践例報告会を全学レベルで開催し，各学科の優れた取り組みを共有する。	④　教育実践事例報告会（12/5）を開催し，両キャンパスの優れた取り組みを共有した。	A	A	
⑤　JABEE審査結果を有効に活用するとともに，機関別認証評価の受審査の準備を行う。	⑤　JABEE審査結果を有効に活用するために，教育方法等の改善について，検討を行っている。 機関別認証評価に向けて学校の教育目的の見直しを行い，一般教育科，各専門学科及び専攻科の教育目的を設定した。その教育目的を達成するための学習教育目標を各学科で設定し，各学習教育目標を達成する教科を設定してその達成確認方法を明確にした。 次のPDCAを回す「教育の質の向上及び改善を行うシステム」を構築した。 (1)前年度末にシラバスを作成（plan） (2)講義日誌に授業内容を記録（do） (3)各科目の学習到達目標達成を確認。 各学科(教科)での相互評価(check) (4)次年度のシラバスに反映（act）	A	A	
⑥　キャリアサポートセンターを中心に，インターンシップ参加のためのシステムの充実や学生への啓発活動，企業への働きかけを行う。 インターンシップ参加学生を増やすために，各キャンパスのインターンシップ受け入れ可能な企業名，インターンシップに行った企業名，実施報告会等の情報を開示する。	⑥　キャリアサポートセンターを中心に学生への啓発活動，企業への働きかけを行い，インターンシップ参加者数の増加に努めた。（H22：205人→H23：222人） 本科3年生を企業合同説明会に参加させ，インターンシップ企業とのマッチングを行った。	S	S	
	インターンシップ受け入れ可能企業，インターンシップに行った企業名の情報をHPに掲載した。	A		
⑦「企業技術者等活用プログラム」，「ものづくり分野の人材育成事業」を実施する。 現役ICT企業技術者を活用して学生のソフトウェア開発能力を向上させ，地域連携に結び付ける。 香川高専テクノフォーラムの立上げに取組み，高専出身者で企業退職者の人材活用を検討する。	⑦「企業技術者等活用プログラム」事業（高専機構）を積極的に活用した。（高松：CADⅡ，卒業研究等における学生指導，詫間：工学実験，卒業研究等における学生指導） また，「ものづくり分野の人材育成事業」（全国中小企業団体中央会）において「電子技術」と「機械設計」の2コースを両キャンパスで開講し，企業技術者に講習を行った。	A	A	
	現役ICT企業技術者を活用して学生のソフトウェア開発能力を向上させ，地域連携に結び付けるAndroid講習会を実施した。	A		
	「多くの市民が気軽に科学技術にふれあえる場」の提供をめざした香川高専テクノフォーラムを12件開催した。3月には年間活動報告を行った。	A		

平成23年度　年度計画	平成23年度　実績報告	自己評価		
⑧　鹿児島大学で開催予定の平成23年度全国高専教育フォーラムに積極的に参加する。 　長岡技術科学大学と連携して，実践的・戦略的技術者育成プログラム（技術者育成アドバンスドコース）を実施する。	⑧　8/23～25に鹿児島大学で開催された平成23年度全国高専教育フォーラムに参加した。（教員13人，技術職員1人）	B	A	
	長岡技科大戦略的技術者育成アドバンスドコースに参加し，協働科目Ｉとして「技術科学フロンティア概論」と「技術者のための英語」の2科目を開講した。（担当教員　4人，受講学生 13人）	A		
⑨　両キャンパス間のインターネット環境を活用し，e-Learningなどのコンテンツを開発する。 　引き続き，e-Learningによる「創造性豊かな実践的技術者育成コース」を利用した授業を行う。 　教員にe-Learningサーバの利用を促す講習会等を行う。	⑨　両キャンパス間のインターネット環境を活用し，e-Learningなどのコンテンツを開発中である。	B	B	
	e-Learningによる「創造性豊かな実践的技術者育成コース」を利用した授業を情報通信工学科4年生を対象に18時間行なった。	A		
	インターネット環境を活用し，WebClassを利用した講習会（12/6）を実施した。	B		
（5）学生支援・生活支援等 ①　教職員を対象にしたメンタルヘルス講習会を実施する。 　学生対象に「薬物乱用防止」「飲酒喫煙防止」「自殺防止」に向けた講習会を実施する。 　平成24年度の全面禁煙に向けてタバコの有害性について徹底した周知に努める。 　二輪車の交通安全教室や，携帯電話・ネット安全教室を開催する。	（5）学生支援・生活支援等 ①　教職員を対象とした「メンタルヘルス講習会」（2/14）を実施した。 　また，教育・心理検査Hyper-QUを1～3年生までの全学生に対して実施した。	A	A	A
	学生対象の 「飲酒喫煙防止講習会」（10/12），「薬物乱用防止講習会」（11/24），「自殺予防講習会」（12/14）を実施した。	A		
	4月に全教室に喫煙の害に関するポスターを掲示し，11月に平成24年4月から校内全面禁煙となることを示す掲示を行うとともに，喫煙防止講習会（12/12）を実施した。	A		
	「二輪車安全運転講習会」（9/28），「携帯電話・ネット安全教室」（6/15）を実施した。	A		
②　図書館及び寄宿舎や宿泊できる施設の実態を踏まえた整備を行う。 　詫間キャンパスにおける寄宿舎1棟の取り壊しが認められたので，寄宿舎2棟，3棟，4棟の改修整備に向けて具体的計画を策定する。	②　検索システムの改善，英語多読図書，TOEIC及び英検問題集を収集するなど，利用者のニーズに対応した。	S	S	
	両キャンパスの生活環境に差が生じないように，戦略的に寄宿舎の耐震改修，寮室へのエアコン設置とインターネット利用環境を整備した。 　1棟取り壊し後の跡地の有効利用を図るため，コンペ形式による学内施設整備プロジェクトを立ち上げた。このプロジェクトは，広く学内外から募集し，今後の学内整備計画作成に役立てることが目的である。 　寄宿舎2棟の耐震改修を年次計画で実施している。 　昨年度に引き続き，詫間キャンパス図書館の空調設備改修を行った。 　スーパー高専としての高松，詫間の図書館の在り方について，情報ネットワークとの融合も視野に入れ，委員会設置を計画している。	S		
③　各種奨学金に関する情報は，HPや香川高専だより，教室掲示を通して学生に迅速に周知する。	③　各種奨学金に関する情報は，香川高専だより，教室掲示を通して，学生に迅速に周知するよう改善した。 　特に，各種奨学金の説明会開催前には，電子掲示板，教室掲示，校内放送で周知の徹底を図っている。	A	A	
④　キャリアサポートセンターによる企業情報，就職・進学情報などの提供体制を充実させる。 　各キャンパスに求人に来ている企業名など（求人票一覧），就職内定企業の情報を開示する。	④　キャリアサポートセンターを通じて，両キャンパスの企業，就職・進学情報等の提供体制を充実させた。 　企業から寄せられた情報は，香川高専HP（学内限定）に掲示及び担任へメールで周知している。	A	A	
（6）教育環境の整備・活用 ①　施設・設備の老朽化状況を把握し，施設・設備の計画的な更新を図る。	（6）教育環境の整備・活用 ①　現時点での施設・設備の老朽化状況について把握するとともに，計画的に更新を図るために中長期の施設整備年次計画を策定して施設整備概算要求，営繕要求を行った。 　本年度は営繕事業により建設環境工学科棟1階の内部改修(年次計画)，管理棟等内部改修(年次計画)，詫間寄宿舎3棟の空調電源整備，寄宿舎2棟の耐震改修(年次計画)、図書館1階空調設備改修(年次計画)等，教育環境整備を行った。 　省エネについては，計画的に窓の複層ガラス化，高効率トランスに更新，給湯設備改修を行った。またハード面の強化だけでなく待機電力調査等ソフト面でも対応した。	A	A	A
②　産業構造の変化や技術の進展に対応できる実験・実習や教育用の設備の導入計画について検討する。 　施設の耐震化，校内の環境保全，寄宿舎の整備を計画的に進める。	②　実験・実習や教育用の設備の導入計画について，設備整備更新年次計画を策定した。 　両キャンパスの施設の耐震化，校内の環境保全については，年次計画により計画的に実施した。	A	A	
③　学生及び教職員を対象に，常時携帯用の「実験実習安全必携」を配付するとともに，引き続き安全管理のための講習会を実施する。	③　実験実習安全必携を学生に配付すると共に，四国地区大学職員を対象とする安全衛生講習会（9/27）に参加した。	A	A	

平成23年度　年度計画	平成23年度　実績報告	自己評価		
2 研究に関する事項 ①　全国高専テクノフォーラムなどで研究成果を積極的に発信する。 JST新技術説明会，セミコンジャパン，イノベーションジャパン等の研究成果を公開できる展示会，発表会へ参加する。 科学研究費補助金等外部資金獲得のためのガイダンスを実施する。 外部資金獲得のための有効な方策等を検討・実施する。 橋の老朽化対策研究会活動を中核として，全国高専建設系学科を有する高専の教員と研究協力する体制を確立する。	2 研究に関する事項 ①　全国高専テクノフォーラム(8/4)，産学官連携推進会議(9/21，22)，イノベーションジャパン(9/21，22)，高専機構新技術説明会(7/5)などで，研究成果を積極的に発表した。	S	S	A
	科学研究費補助金説明会(9/28，29)を開催し，校長から科学研究費補助金に申請することが教員にとって義務であることについて説明し，申請を促した。	A		
	全国高専建設系学科を有する高専の教員と情報共有等を行うため，橋の老朽化対策研究会HPを6月に開設した。 また，8月に第2回橋の老朽化対策研究会を香川高専において開催し，研究会会員9高専15教員が活動紹介や意見交換を行った。 この活動を基に，H23.12.7　高専機構と(独)土木研究所は連携協力の推進に関する協定を締結した。	S		
②　四国地区高専，県内大学高専合同シーズ発表会などを開催する。 高専シーズを活用した共同研究など産官学連携事業を推進する。 四国地区高専で共同して，四国地区内での教員シーズや知的財産シーズの共有と企業とのマッチングを促進する仕組みを検討する。 A-STEPへの申請を促す。	②　四国地区高専シーズ発表会(8/23～8/27)，県内大学高専合同シーズ発表会(9/14)を開催した。四国地区高専シーズ発表会は，TV会議システムにより，四国5高専で同時に聴講できるように配信した。	S	A	
	四国地区高専知財紹介シート集を発行して，高専シーズを活用した共同研究など産官学連携事業を推進した。	A		
	香川高専を拠点とする四国地区高専地域イノベーションセンターで作成した「知的財産紹介シート集」(第2版)を，四国地区内の企業や知的財産シンポジウム(徳島)等で配布・広報した。 「知的財産紹介シート集」(第3版)は3月に発行した。	A		
	A-STEPについての説明会や外部資金獲得について，コーディネーターから四国地区5高専の教員に申請を促すなどの対策を行っている。(申請：17件，採択2件)	A		
③　学生，教職員への知的財産教育を行い事業化可能な知的財産取得を推進する。 学生向けの知的財産講習会等を行う。	③　学生，教職員を対象として，外部講師による知的財産に関する講演会(1/26，2/28)を実施し，学生・教職員の事業化可能な知的財産取得を推進した。 知財取得の際に証拠となるラボノートを学生の卒業研究ノートとして導入した。 学生向けの発明コンテストを実施し，学生の知財への意識高揚を図るとともに，知的財産権取得に向けて取り組んだ。 7/14に学内で公募を行い，審査会を経て10/13に表彰を行った。	A	A	
3 社会との連携，国際交流等に関する事項 ①　地域人材開発本部，みらい技術共同教育センター及び地域イノベーションセンターの体制の充実を図る。 四国地区高専地域イノベーションセンターを通して，四国地区高専で連携できる仕組みを構築する。 三豊市や企業との産学官連携ネットワークを構築し，地域の活性化を図る。 企業等との連携のためのイブニングセミナーなどを行う。 施設機器の開放の制度整備に取り組む。	3 社会との連携，国際交流等に関する事項 ①　地域人材開発本部等の印象を高めることを目的として製作したロゴを，印刷物やHPで利用を開始した。 また，地域人材開発本部，みらい技術共同教育センター及び地域イノベーションセンターの体制，施設及び活動内容を広報するため，パンフレットを作成した。	A	A	A
	四国地区高専地域イノベーションセンターが主体となり，四国地区高専シーズ発表会を開催した。(8/23～8/30) 四国地区高専生命倫理委員会を9/6(審査件数，2件)，3/29(審査件数，3件)に開催し，審査内容はHPで公開した。	A		
	三豊市，香川銀行との連携協定に基づき，徳島・香川トモニ市場(東京有楽町)で「みっちゃん・とよさん」の冷茶接待のほか，三豊市の特産品の販売等を共同で行うなどの活動を通して，地域の活性化に貢献した。 大学教育推進プログラム「学生主体のベンチャー創出プログラム」の目的である，学生・教職員・地域一体となった高専発ベンチャー創出達成のため，教員を代表者とした会社(合同会社アーク)を設立(3/9)した。	S		
	企業等との連携のためのイブニングセミナー(6/8,9/28,11/30，1/25)や信号処理研究会(5/14,7/23，2/17)を開催した。	S		
	施設機器の開放の制度整備を行うため，規程等を策定中である。	A		
②　香川高専HP，ICTオープンキャンパスや技術シーズ集などの印刷物で研究成果を定期的に公開する。 香川高専HPに，みらい技術共同教育センター並びに地域イノベーションセンターの活動をより詳細に掲載する。	②　香川高専HPで技術シーズや知的財産紹介シート集を公開するとともに，各種講習会の案内を掲示した。	A	A	
	みらい技術共同教育センターと地域イノベーションセンターの活動をより詳細にリアルタイムに掲載するため，HPの見直しを行った。	B		
③　小・中学校への出前授業等をより積極的に実施し，その取組事例の情報発信に努める。 情報発信に香川高専HP，ICTオープンキャンパスを利用する。 コミュニティセンター等でのイベントに参加する。 みとよ少年少女発明クラブのサポートを推進する。	③　小・中学校への出前授業を5件，コミュニティセンター等へのイベントに30件参加し，その取組については，香川高専HPやICTオープンキャンパスで紹介した。	A	A	
	小学生を中心とした「みとよ少年少女発明クラブ」が5月18日に「NPOみとよ発明キッズ」と改名され，みらい技術共同教育センターはNPOみとよ発明キッズの携帯電話メール双方向情報発信システムの改良を行うなど，引き続きその活動に支援・協力した。	S		
④　小・中学生，社会人及び企業技術者などそれぞれのニーズに対応した公開講座や出前講座などを実施する。 県・市との連携による講座について，継続して充実を図る。 地元の組込み技術者を対象とした，組込み技術者セミナーを開催する。 各種媒体を活用して地域への情報発信に努める。	④　社会人及び企業技術者などそれぞれのニーズに対応した公開講座や出前講座(FPGA回路設計・㈱ヒューテック)などを実施している。	A	A	A
	県・市との連携による講座(脳きらり教室 7件，三豊市知名度向上ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 3件，香川県(地域ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝ戦略支援ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ)　1件)について継続して実施し，内容の充実を図った。	A		
	地元の組込み技術者を対象とした，組込み技術者セミナー　(基礎コース 10/13,14,21　実力養成コース 12/15,16　リーダーコース 2/9,10)を開催した。	S		
	香川高専HPやICTオープンキャンパスへの掲載，地元新聞などへの積極的な情報提供を行い，地域への情報発信に努めた。	B		

平成23年度　年度計画	平成23年度　実績報告	自己評価		
⑤　同窓会総会に教員も積極的に参加して連携を深める。 　ホームカミングデーを開催する。 同窓会に働きかけ，会員相互のネットワークの構築を支援する。	⑤　同窓会総会（高松9/17，詫間7/30）に教員も積極的に参加して交流を深めた。	A	A	
	ホームカミングデーを11/5･6に開催した。	A		
	同窓会に働きかけ，会員相互のネットワークの構築について検討を開始した。	A		
⑥　国際シンポジウムを開催することなどより海外の教育機関との学術交流を推進する。 　海外交流協定校へのインターンシップ派遣並びにインターンシップ受け入れについて検討する。	⑥　5/21･22に国際シンポジウム「GEE2011」を開催した。 　シンポジウムには，国内外の環境地盤工学に関する研究者45名及び本校教員・学生33名が参加し，学生も研究発表を行った。	S	S	
	7/11～15の間，協定校の東洋未来大学から教員2名及び学生6名が訪問し，合同研究発表会や意見交換などの交流を行った。 また，期間満了及び両校名称変更により，協定の再締結を行った。	S		
	環境と福祉の理工学の発展に寄与する目的で12/10,11に開催された日台青少年シンポジウムに，学生4名及び教員2名が参加した。	A		
	7/1～10/31の間，協定校のマラ工科大学の学生2名を，特別聴講学生として受入れた。学生2名は，㈱四電技術コンサルタントでインターンシップを実施した。 10/31に研修報告会を行い，在校生との交流を深めた。 11/7に国際学生交流プログラム修了式を行った。 　協定校との学術交流を推進するため，国際交流委員を正修科技大学（3/22，23），マラ工科大学（3/26，27）へ派遣した。	S		
⑦　各種イベントに留学生に参加してもらい，留学生と日本人学生，留学生と地域社会との交流を推進する。 　私費留学生など外国人留学生受入拡大に向けた環境整備の充実ならびに実施体制に関する検討を進める。	⑦　地域が開催する各種イベント（日本語弁論大会・伊方発電所見学など）に留学生が参加した。	A	A	
	地元留学生支援団体の参加を得て，両キャンパス合同の留学生交流会を年2回開催し，両キャンパスの学生交流を推進した。	A		
	国費，マレーシア政府派遣，私費留学生の女子留学生を受け入れるための施設整備として，高松キャンパス女子学生寮に補食談話室を整備した。	A		
⑧　留学生見学旅行を実施する。 　四国地区高専外国人留学生交流活動に参加する。	⑧　留学生見学旅行（1/28）を実施した。	A	A	
	四国地区高専外国人留学生交流活動（12/17）に留学生12名が参加した。	A		
4 管理運営に関する事項 ①－1　両キャンパス一体となったスケールメリットを生かして，戦略的かつ計画的な資源配分を行う。	4 管理運営に関する事項 ①-1　校長のリーダーシップの下で校長裁量経費を前年度から3,410千円増額させ，戦略的に重点配分した。 　（H22年度：　26,093千円，　　H23年度：　29,503千円）	A	A	A
①－2　リスク管理室を設置するなど，内部統制の充実・強化を図る。	①-2　平成23年5月26日付けでリスク管理室を設置した。	A		
②　事務組織の見直しを検討する。 　平成22年度に作成した防災マニュアルを東日本大震災を受けて，より精緻化に努める。 　IT資産管理システムにより，ソフトウエア管理を適正かつ効率的に行う。	②　情報セキュリティ担当の専門員の配置を行った。 　施設課の体制の見直しを行った。	A	A	
	東日本大震災を受けて，香川高専災害時対応マニュアルの見直しを行っている。今年度は緊急連絡網を整備した。 　また，教職員の緊急連絡先を把握するための「緊急連絡先届」を制度化した。	A		
	教職員に対してIT資産管理システム導入の説明を行い，各パソコンにエージェントを導入し，ソフトウエア管理を行う体制整備を行った。	A		
③　事務職員や技術職員の研修会参加を推進する。	③　四国地区高専技術職員研修・技術発表会（8/11，12）に参加した。	A	A	
	また，機構本部や人事院，地域高専間，四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）主催の研修会等に積極的に参加した。	A		
④　事務職員及び技術職員については，国立大学や高専間の人事交流を図る。	④　事務職員及び技術職員について，国立大学や高専間の人事交流を実施した。	A	A	
5 その他 　学年進行にあわせて，施設・設備の整備及び両キャンパスの教職員の配置を適切に行う。	5 その他 　施設・設備の整備及び両キャンパスの教職員の人事交流について計画・実施した。	A	A	A
	高度化再編に伴う詫間キャンパス第二学科棟のみらい技術共同教育センターの施設設備の整備を計画的に行った。	A		
	寄宿舎第3棟の空調電源整備に伴う暖房用ボイラーの廃止，図書館の空調機の更新による高効率化及び変圧器の更新等の省エネ機器導入により省エネ化を図った。	A		
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 　スケールメリットを生かし，戦略的かつ計画的な資源配分を行うとともに，業務の効率化を図り，経費の節減に努める。 　契約に当たっては，原則として一般競争入札等によるものとし，企画競争や公募を行う場合においても競争性，透明性の確保を図る。 　高専間相互監査を実施し，入札及び契約の適正な実施についてチェックを行う。随意契約については見直しを継続する。	Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 　校長のリーダーシップの下で校長裁量経費を前年度から3,410千円増額させ，戦略的に重点配分した。（H22年度：　26,093千円，　　H23年度：　29,503千円） 　契約に当たっては，規則に定められている金額以上はすべて一般競争入札によるものとし，企画競争や公募を行う場合においても競争性，透明性の確保を図った。 　高専間相互監査を実施し，入札及び契約の適正な実施についてチェックを行い，適正であることを確認できた。随意契約については継続して見直しを行った。	S	S	S

平成23年度　年度計画	平成23年度　実績報告	自己評価		
Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む。），収支計画及び資金計画 1 収益の確保，予算の効率的な執行，適切な財務内容の実現 　共同研究，受託研究，奨学寄附金，科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み，自己収入の増加を図る。	Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む。），収支計画及び資金計画 1　収益の確保に努めるとともに，予算の収支計画，資金計画について検討し，より効率的な執行に努めている。 　科学研究費補助金説明会を開催し，申請を促した。	A	A	A
Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 　教育研究の推進や学生の福利厚生の改善のために必要な施設設備の新設，改修，増設等を計画的に進める。	Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 1 施設・設備に関する計画 　施設整備の新設・改修・増設について整備計画を策定し，実施している。	A	A	A
2 人事に関する計画 （1）方針 　教職員ともに人事交流を進め，多様な人材の育成を図るとともに，各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。	2 人事に関する計画 （1）方針 　両キャンパスの全教職員を対象としたFD・SD研修会（7/26）を実施した。研修会では，統合後の検討課題を抽出し，教職員が解決に向けて議論した。この研修会は来年度も継続して実施する。 また，研修会の報告書を作成し，全教職員に配付した。	A	A	
（2）人員に関する計画 　常勤職員について，その職務能力を向上に努めるとともに，事務組織の見直しや電子化，アウトソーシング等により事務の効率化を図る。	（2）人員に関する計画 　常勤職員については，計画的に研修の機会を与え，その職務能力の向上に努めるとともに，事務組織の見直しや電子化，アウトソーシング等により事務の効率化を図っている。	A		